

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	第1回 枚方市総合計画審議会 第1部会
開 催 日 時	平成26年8月28日（木） 18時55分から20時30分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第3委員会室
出 席 者	部会長：新川委員 副部会長：加藤委員 委員：岡田委員、北川委員、小原委員、徳久委員、本田委員、宮原委員、三輪信哉委員
欠 席 者	三輪敦子委員
案 件 名	1. 部会長及び副部会長の選出について 2. 会議録等の公開について 3. 第5次総合計画基本構想（素案）について
提出された資料等の名	第5次枚方市総合計画基本構想（素案）について
決 定 事 項	1. 部会長に新川委員を、副部会長に加藤委員を互選により選出した。 2. 会議の公開のルールや会議録の対応については、審議会と同様の取り扱いとし、傍聴を認め、会議録は各委員の確認を経て、部会長の承認を得た上で確定し公表することとした。 3. 第5次総合計画基本構想（素案）について、次回の部会で、今回の議論を振り返りながら、引き続き議論していくこととした。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	2人
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	政策企画部 企画課

審 議 内 容

事務局	<p>ただ今より、第1回枚方市総合計画審議会第1部会を開催いたします。部会長と副部会長を選出いただくまでの間、部会を進行させていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>まず、本日、9名の委員の方にご出席いただいておりますので、枚方市附属機関条例に基づき、この部会が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、案件といたしまして、部会長、副部会長の選出に移らせていただきます。早速でございますが、附属機関条例第4条第2項の規定により、部会長と副部会長の選出を委員の皆様の互選により、お願いしたいと思います。</p> <p>委員の皆様からご提案がございましたら、お願いいたします。</p>
宮原委員	<p>事務局一任で皆様いかがですか。</p>
事務局	<p>ただ今、宮原委員から「事務局に考えがあれば提案してはどうですか」というご提案をいただきました。皆様いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」の声）</p> <p>それでは、ご賛同いただきましたので、ご提案させていただきます。</p> <p>審議会の新川会長に部会長を、加藤委員に副部会長をお願いしてはどうかと考えます。皆様いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」の声）</p> <p>それでは、ご賛同いただきましたので、新川会長に部会長を、加藤委員に副部会長をお願いさせていただきます。</p> <p>それでは、これからの進行につきましては部会長をお願いしたいと存じます。それでは部会長、並びに副部会長どうぞよろしくお願いいたします。</p>
新川部会長	<p>それでは、ただ今、部会長を私に、副部会長を加藤委員にご選任いただきました。皆様方のご協力をいただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、早速でございますけれども、部会の審議を進めさせていただきたいと思っております。本日、お手元の部会の次第、案件の2番目でございますように、今後部会を進めていくにあたりまして、会議の公開及び会議録の作成等につきましていかが取りはからいましょうか。基本的に本体の審議会ですでに「公開」で了解されておりますので、同様に取扱いができればと思っておりますが、委員の皆様方、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」の声）</p> <p>ありがとうございます。それでは特にご異論がないということで、会議の公開につきましては、審議会と同様の扱いにさせていただきます。原則として、傍聴もしていただく、会議録も同様に公開させていただくことでお願いします。</p> <p>それでは、本日の案件3「第5次総合計画基本構想（素案）」についてご意見をいただいきたいと思っております。すでに内容については、さきほど事務局からご説明をいただきました。また、委員の皆様方はこの資料をすでにご覧いただいているかと思っております。まず、限られた時間で、できれば部会のすべてのメンバーの方々に、それぞれのお考えをいただきたいと思っております。そこで、ご提案をさせていただきたいのですが、最初に各委員全員の方から、この素案についての考え方、ご意見をひと言でもふた言でも、あまり長い時間は困りますが、それぞれのお考えをいただきたいと思っております。そのあと、自由に、気づいた点あるいは他の委員のお考えをひきのばしていただいたり、ご自由にご意見を出していただくというようにしてまいりたいと思っております。およそ1時間ちょっとですので、そのように進めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。よろしいで</p>

しょうか。  
それでは、そういう進め方をお願いしたいと思います。  
それから、前にホワイトボードに紙をはって、少し書き始めていただいております。皆様方のご発言のポイント、中心になる論点などを、しゃべりっぱなしで済ませてしまうのではなく、文字の形に少し整理をさせていただいて、確認をしながら進めていきたいと思っております。そして、本日の最後に、少し本日の議論の中で、こういう論点があつたことなどについて確認していただき、全体で共有して、次回の部会の議論につなげていきたいと思っております。この点も了解いただけますでしょうか。言いつぱなしにしないで、できるだけふりかえりながら、しっかり進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。ご異論はないようですので、これで進めさせていただきます。

それでは、早速でございますけれども、第5次総合計画基本構想（素案）について各委員から、まずはひととおり、ご感想やご意見、足りないところ、構想としては不適切なところ、いろいろとお気づきの点あるかと思ひます。どういう論点でも結構です。基本的な枠組みの議論もあろうかと思ひますし、それぞれの素案の内容に関わる、例えば5つの基本目標についての議論もあろうかと思ひます。さきほど徳久委員からもございました、まちづくりの役割分担やいろいろな連携・協力のようなものを目標にきちんと入れてはというお話もいただいております。そういう組換えの論点でも結構ですし、例えば活力のある、賑わいのあるという方向がございましたが、基本構想にちゃんと入れておくべきことがあるといった話も当然ありうると思ひます。どういう点でも結構ですので、まずは各委員からご発言をいただきまして、それをお互いにしっかりと受け止めながら、また改めて付け加えるべき点、また確認をすべき点、そして私たちがめざすべき方向などについて、いろいろ議論を重ねていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

それでは、どういたしましょうか。私から始めます、ぜひ最初に言いたいという方はいらっしゃいますか。いらっしゃらなければ、あいうえお順ということになります。

徳久委員

提案です。最初に市民委員の方など、大学に属さない委員の率直な意見を伺いたいなと思うのですが。

加藤副部長

非常に同感です。

新川部長

学識の方は納得されたとして、市民委員の方はいかがでしょうか。いやだというようなことはないでしょうか。これもご提案でございますので、それでよろしければ、学識の先生方は後半に控えていただいて、いろいろな団体や校区や市民としてご参加いただいている方からまずはご発言いただくことにしたいと思います。よろしいでしょうか。いいいまして、あとは、あいうえお順でお願いします。

それでは、岡田委員からご感想を含めて、この素案についてのご意見をいただければと思ひます。

岡田委員

岡田です。私は農協のほうの常務理事をさせていただいております。農業についての記載が若干ありまして、「活気があふれ、賑わいのあるまち」の中に、「地産地消の推進や自然環境の維持を図るため、農業の保全に努めます」とあります。実は保全に努めますとはいうものの、毎年枚方市では10ヘクタールずつ農地が減少しているところです。これの大きな原因のひとつは、市街化調整区域が、ある条件にマッチすれば、開発していいですよとなっており、よって、ロード沿いのいい場所から順番に農地がだんだん減少している状態です。招提北町に営農センターというのがあり、ライスセンターや水稲苗の育苗センターをこしらえて育苗しているんですけども、ついに都市化が隣接農地までやってきて、開発される、農地を売っちゃうよ、えらいことだとなっており、ついに追い出されるのではないかとこのところまで、追いやられてきています。保全に努めますといいつつ、いわゆる市としては、宅地化のほうを平気で進めている状況です。

<p>新川部会長</p>	<p>それから、産業のひとつにももちろん農業も入っているわけなんですけど、それだけではない部分がありますので、項目について、例えば「自然と共生し、美しい環境を守るまち」にも関係してくるでしょうし、「健康で、ともに助け合うやさしいまち」であったり、いわゆる食農教育など「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」にも関連してくるのではないかなと思います。</p> <p>それから、大都市近郊ですので、いわゆる賃貸住宅経営であったりとか、あるいはサラリーマンとして大企業に勤めて兼業農家だったり、専業農家はほぼない状況であったりとか、つまり、収入源がいろいろあるのでハングリーさがありません。ひとつ枚方市の農業の状況を報告させていただきました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>農地の問題、産業としての農業、環境としての農業、健康などの視点からの農業という論点をいただきました。</p>
<p>北川委員</p>	<p>めざす方向性はいいのではないかなと思います。やはり住んでいる人が「住みたい・住み続けたいと感じられるまち」ということで、観光都市でもないですし、外から人を集めてくる、昼だけ働きに来るという場所でもない、やはり寝に帰るといふか、家を持って住むということだと思いますので、方向性としてはいいのかなと思います。ひとつ気になったのは、5つの基本目標で、若干分類が、例えば「健康でともに助け合うやさしいまち」で、「健康」と「ともに助け合う」がどうリンクしているのか、「子どもが輝く」と「文化を育む」についてもそう感じます。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>無理やりつくった感があると。</p>
<p>北川委員</p>	<p>そのとおりです。5つで基本目標は少ないほうが分かりやすいとは思いますが、無理やりつくったような印象をもちました。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>短くまとめるために、いろんな要素を入れ込みすぎて、分かりにくくしているかもしれません。ここはまた議論いただければと思います。</p>
<p>小原委員</p>	<p>世代間の助け合い、具体的にはまちには高齢者もおりますが、中学生もおります。災害時など中学生がどれだけまちの役に立ってもらえるか、そこに教育委員会という行政がからんで、話し合いの場を持っていたらなと思っております。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>高齢者施策を、いよいよ超高齢社会の中で、どう考えていくべきか、かなり大きな問題ではあります。世代間の助け合いの問題、災害時の問題について、どういう形で構想に入れるか、重要な点だと思いますので、しっかりと入れ込んでいただければと思います。</p>
<p>本田委員</p>	<p>基本構想の「めざすまちの姿」として、「住みたい、住み続けたいまち」と出していたいて、そうですねと思いますし、ひとつひとつの言葉は興味がないというか、どれみても、そうなったらいいですよねという部分を感じます。それはそれで話し合って決めたいと思うのですが、その決まった後のことが気になっていまして、これをどのぐらいの市民が、これが決まっているということを知ってて、例えば、市役所の方々が仕事をするときに、どれぐらい、それを意識しているのか、何か目標を決めるときに、これをやることによって、本当に「住みたい、住み続けたいまち」になるのだろうかというところまで、身にしみて思っておられるか、市民の方が思うか、運用のところの方が気になります。</p> <p>例えば、現在の第4次総合計画、「出会い・学びあい・支えあい、生きる喜びを創るま</p>

	<p>ち、枚方」をどれぐらいの市民の方が知っていて、聞いたことがあって、市役所の方に聞いたら、どれぐらいの方がすぐに答えられるのかということが気になります。こういった構想をつくって、基本計画をつくって、冊子にしておいてあるだけなのか、気になる人はみるけれども、どのぐらいみんなこれをめざそうと思って、そこに向かって頑張るような仕組みがつくられているのかどうかというところが気になっているところの1つです。</p> <p>もう1つ、個人的に、どのタイミングで言ったらいいのかと思っていることがあります。前の基本計画などをみても、数値目標というか、個人的には、この「住みたい、住み続けたいと感じられるまち・枚方」を目標にかかげるのであれば、他の中核市の比較の中で、住みたいのであれば人口、増えないにしても、人口の減少率が中核市の中で一番低いまちをめざすというような、はっきりした指標を、どの時点で入れられるのかなということが気になっています。今は基本構想で、基本計画の時点でかかげられるのか、かかげたほうが、見ておもしろい。ただ、中核市のなかで1位というのが難しい話であれば、とにかく高槻市をライバル視してもいいと思うんですよ。高槻市にはこれは負けない、例えば治安の部分で犯罪率の低さでは高槻市には絶対負けないというような、何かしぼって目標にするものがあれば分かりやすいのではないかと思います。</p>
新川部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>計画を実現していくというところを、基本構想レベルからもしっかりと実現手法とか手段とか書き込むべきかも知れないという、今話を聞きながら改めて、考えました。それがないと、現在の第4次総合計画について、職員の方にアンケートをとったら、知っている方、計画があるのは知っていても、めざすまちの姿を書けと言われて何人の人が書けるのか。</p> <p>数値目標のところは、おそらくこれから基本計画で、どういった目標をたてるのかというところかと思いますが、実現手段であったり、実現していくためにできるだけ客観的に比較できるような目標を掲げるべきで、基本構想の時から検討しておくべきであるとのことご意見でした。</p>
宮原委員	<p>「住みたい、住み続けたいと感じられるまち・枚方」、本当にそうあってほしいなと思いましたし、本田委員がおっしゃられたように、どう具体化するかが大きな課題だなと思いつつ、この素案を読ませていただきました。</p> <p>ただ、施策において、ひとつほっとしたのは、以前、48の施策を枚方市がつくって、それに応じて具体化されてるんですが、5年間でその施策を決めてたので、目標なども途中で変えられない。5年間の間で大きく内容が変わっていても変えられないということがあったので、今回は基本計画について必要に応じて改定を行うこととしますという文章があったのは、ほっといたしました。</p> <p>ただ、全てのところに市民・NPO・事業者・行政が協力しながらとのくくりがあるんですが、市民、事業者、行政はわかりますが、それ以外のくくりをNPOの1つの言葉で表現するのは、今の社会では一般的なんでしょうか。疑問に思う人が多いのではないかと思います。私個人もNPO法人格はつくっているんですけども、個人的な行動は別にして、それ以外を1つにして大丈夫なのかと思いました。</p>
新川部会長	<p>そうですね、NPOといたしますと、どうしても法律上のNPO法人を想定しやすいですが、一番幅広くは非営利の組織ということですから、事業者・企業の営利の方々とはちがう市民の団体を全て含めるという理解のしかたもできないわけではありません。市民のみなさんにとって分かりやすい表現というのが、NPOかどうか、またいろいろご意見をいただければと思います。</p>
新川部会長	<p>それでは学識の先生方からの最初のご発言をいただきたいと思います。もう、いろいろとでてきてしまって、段々としやべること逆にも逆にも増えるかもしれませんが、こちらもあいうえお順でよろしいでしょうか。</p>

加藤副部長	<p>やはり、地元に住んでおられる方の意見が聞いてよかったと思っております、そこをベースにして、どうつくっていくかというのがよいと思っております。さきほどの基本的な考え方のところですけども、3つ目の「社会状況の変化に対応できる」、これは市長さんが代わったときに、ある程度変更できるよということが書いてあるのかなと思って分かりやすい。1つ目については、ある意味根幹になるような考え方で分かりやすい。2つ目の「選択と集中の視点を持った計画」というのがもう1つよく分からない。財政的な話とかいろいろ書いてありますが、例えば、さきほど、5つの基本目標ってありますよね、これすべての分野のことを言ってますよね、おそらく、その前の基本計画でも同じ様なことは言われてますよね、そうすると、どこが選択と集中なのかをお聞きしたいところです。考え方はあるんですけども、まず選択と集中をどういうふう考えているか。そこが非常にポイントになるかなと思っております。</p> <p>そのいかんによっては組換えなども必要ではないかと思っております、「住みたい、住み続けたいと感じられるまち」というのは、たぶん暮らしやすさとか、要するに住宅都市をめざして、そこに暮らしている人が暮らしやすい、ここを最大の評価基準にして、中をつくっていく。すべての施策はそこからくるわけです。例えば農業を、さきほどお話でましたけれども、極端なことをいいますと、農業の従事者が大事なのではなくて、暮らしている人にとって農業はどういう形の貢献内容ができるのか、その視点からもう1回組みかえるのが、選択と集中の考え方ですね。分野について、どの分野をけずって、どの分野をけずれないということであれば、切り口で分野を1つの視点から、選択と集中というか、優先順位をつけるしかないと思います。極端に言うと、そういったことをしないと、なかなか選択と集中にならないのではないのでしょうか。</p>
新川部会長	<p>また、少しご議論をいただければと思います。</p>
徳久委員	<p>先ほど申し上げたので、それで結構です。</p>
新川部会長	<p>先ほど、徳久委員からいただきましたのは、特に14ページにおかれている、まちづくりの進め方の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」について、11ページにあるような基本目標に本来入るべきで、同時に「ともに進める」「ともにやっていく」というのは手段にもなるというお話でした。基本目標であり、手だてでもあるというお話でした。そういう理解でよろしかったでしょうか。</p>
徳久委員	<p>そうですね。もしくは、場合によっては最上位にくる可能性ももちろんあって、その上で住みたいまちをみんなでつくるという形になると思うのですけれども、ここでは後ろに下がりすぎているなど感じます。</p>
新川部会長	<p>そうですね、基本目標の全部にこれ入っていますから、場合によっては、めざすまちの姿の上に、あるいはこれに並ぶ可能性もあるとのご意見をいただきました。</p>
三輪（信）委員	<p>これで幸福感が高まるだろうかというのが非常に関心がございます、これから人口が減ってくることは前提なので、例えば、ちょっと右肩上がりの時代であれば、どうやって人を引っ張ってくるかを考えることが中心だったと思うのですが、これから後片付けの時代だと私は思っています。あのおじいちゃんよく生きてくれたねといったような、そういうイメージみたいなのが、どう後世につながっていくか、そういうところがすごく大事になってくると思います。計画書というものは当然具体の事業におとしていく時に、そういうのはどうやって事業化するのか、すごく難しいですが、本当に枚方に住んで幸福だったなあ、こういう気分で死ぬる枚方ってよかったなあというようなところが、事務的な作業ですのでそういうところが消えてしまうのですが、そういう点が争点として表れてくるといいなと、抽象的ですが感じています。</p> <p>それから、岡田委員がおっしゃっていることがよく分かりまして、環境審議会のほうに所属させていただいておりますので、例えば農業に対して、児童生徒が農地を訪れて</p>

体験学習をしましょうということをやっているのですが、年々、参加者が減っております。それは岡田委員がおっしゃったように、農地が減少しているということで、私はよく破局図を描いてしまうのですが、今のままの大きな枠組みでいくと、そのうち緑が何も残っていない枚方になってしまう。抜本的に、例えば総合計画で、「農」とか「自然」とかが、一番前に出てきて、緑がものすごく保全されていて、このようなまちは高槻にもないねという特徴的な、本当に自然が良く残っているようなまちにしていかないと、それこそ、どこの中核都市とも変わりのない新興住宅街が広がっていて、しようもないと言うか、そんなまちになってしまいかねない。そこで育つ子どもたちも、寝に帰るだけの父親、母親をみていて、人生というのは寝に帰るだけのものなんだという遺伝子を組み込んでいくようなまちづくりはやめたほうがいいなど。そこに住んでいることの意味、このまちは本当に死にがいがあるよなという感覚がもてるまちに、今から思いきり力を入れていかないと、どの都市とも同じような、金太郎飴みたいなまちになってしまうのが目に見えています。どうしていくかを早急に、抜本的に考えていかないと、失う価値は大きいなど。農のことでいうと、ものすごく経済的に評価できない価値をもっています。ましてや、非常に良好な里山、里地をおもちですので、それも風前の灯火だと聞いております。抜本的に、将来これだけの緑地、これだけの緑、これだけの農を残していけないといけないということを死守していけないといけないのではと感じております。

それから、今の状態でいくと、互助、共助に関心をもつ子どもが圧倒的に減っていくのではないかと。今、大学生を教えて、つくづく感じるのは自分の半径5メートル、いや1メートル以内で十分というような、その幸せだけを考えるみたいな子がすごく増えていて、ネットを見ながら自己満足をしていて、そこから外に出てコミュニケーションをとろうとしない子が増えていると感じます。老人は増えていくは、子は減っていくは、この「市民・NPO・事業者・行政がともに進める」主体がいなくなっているようなことになる。そういうことを志す、当たり前のことを、隣のおじちゃん今日は元気かなと見に行くような子たちがいなくなってくる。地域のために動こうとしている青年層が減ってきている。これは非常に絶滅危惧種だと思っています。徳久委員がおっしゃったように、ともに進めることが当たり前で、どちらかという根本的に行政はしぼんでいかざるを得ない。財政的にも。そうすると、しぼんだところをどこが補うか、例えば地域。そこをどんどん強化していくというのを最優先にしていけないと、結局、行政はお金出せないし、サービスはどんどん減っていくし、その中で、隣近所のまちを維持していくような人たちがどんどん減っていくとなると、もうもちきれない。あちらでも孤独死、こちらでも孤独死みたいなまちができあがっていったら、さみしいなと思います。

新川部会長

ありがとうございました。いろいろいただきました。総合計画という性質上、いろいろな中身、市民生活のあらゆる場面、360度全部考えて計画をつくるというのが、これまでの総合計画の基本でした。それは入ってこざるを得ないというところはあると思います。ただ、もう一方では、加藤先生から、また部会の委員のみなさんからもありましたように、そうはいつでも何もかも同じ様にはできない、資源の制約など、そういう中で何を優先順位、あるいは高い価値をおいて、全体を引っ張っていったり、努力を集中させることで、むしろ、その他の分野にも裾野を広げていくという考え方をしていかにざるを得ないのかなと思いつながらお話をお聞きしていました。このあたり、選択と集中の議論はこれかれらも繰り返し進めていかなければならないと思います。

その中でいくつか、重要な論点があり、住宅都市的な視点、環境や緑の視点、人と人の結びつきを大切にする視点などをいただきました。

今のところ、いろんなご意見をまずはいただいているところですが、ここまで順番にお話をいただきました。いくつか共感した部分について、途中で私が駄弁をしたところはありますが、ここまで他の皆さんのお話を聞いて、こういう見方もありますよ、こんなところはどうか、先ほどのご発言に付け足したり、新しいお話をいただいたり、自由な時間を過ごしてみたいと思いますので、ご発言をいただければと思います。いかがでしょうか。ここからはご自由にどんどんお願いします。

徳久委員	<p>それでは、皆さんが考えられている間に、岡田委員がおっしゃられたことがすごく重要なことだと思っていたのですが、それを構想のレベルでお話ししたほうがいいのか、計画のレベルでお話ししたほうがいいのかわからなかったのが、今から申し上げることはおそらく計画レベルの話だと思うのですが、市街化調整区域の話はされたんですが、今後の都市計画を考える際にゾーニングがものすごく重要になってくると思います。枚方市がもし、もう我々は住宅地で生きるというふうコンセプトをはってしまえば、ある種無尽蔵に開発してくれっていうふうにしていいんだと思うんですが、ただそれをするとインフラの維持管理が莫大なコストになる危険性があることをどう考えているのかということが問題になると思います。</p> <p>住宅地ではあるけれども、都市をコントロールして住みよいまちをつくるんだというふうにするのであれば、ゾーニングのかき方をもう一度変えなければいけない可能性もあると思います。それは、さきほど三輪委員がおっしゃったように農地があるのはすごくいいことなんだと考えるのであれば、農地転用しにくい形でのゾーニングをはらなければいけない形になってくる。ですので、住宅地といった場合において、特に市民委員の方に語っていただきたいと思うのですが、それをつくっていくときに、どういう要素がある住宅地にするのか、また、これは手段の問題なので行政の話だと思いますが、それを実現するためにどのような法制度をつくっていくのかというような考え方を最初に大きく議論しておいて、それを具体におとしていってもいいのではないかと思います。</p>
新川部会長	<p>ありがとうございました。とても重要な論点をいただきました。</p> <p>枚方というまち全体をどういうまちとして考えていくのか、その中で実際の土地利用あるいは住まい方というのを将来どのように選び取っていくのか。こういう時代ですからどんどん人口が増えて市内が全部住宅地になっていくというのは基本的にはありえないとすれば、どういう住まい方がされてる都市を目指すのかという時に、環境も緑もそしてもちろん居住の利便性も都市的な機能も、どうバランスをとっていくのか、そのための、そういう大きな絵柄というのがあれば、それに応じて都市計画やあるいは都市基盤整備、もう一方では自然保護や農地の保全ということを考えていくこともできるだろうということでお話をいただきました。</p> <p>このあたり、最初の方で加藤委員からありました選択と集中という問題にも関わってくるものと思います。重要な問題提起ですし、それからある意味では市民の皆様方からいただいたような枚方の将来像の1つの問題からまとめていただいたかなと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
加藤副部会長	<p>市街化調整区域なんですけど、市街化調整区域でドラッグストアが出てきてたんですね。普通最近の動向でいくと市街化調整区域は地区計画かなんかをちゃんと作って、その上で開発したりするんですけど、どうも枚方の場合はそういう方式はとってなくて旧来型の開発をやっている、よくわからなかったんですけど、その辺ちょっと世の中の流れと違うのではないかなと思ったりしたんですけど。</p>
宮原委員	<p>市街化調整区域について、枚方市に住んでいる市民としては、常日頃とても疑問なんですけど、私が住んでるところは結構、緑豊かな住宅地です。市街化調整区域に囲まれていました。住んでいる人たちも、ここは市街化調整区域だからこの緑は保たれていると思いつけてましたし、市街化調整区域はそんなに簡単に外れるものではないから大丈夫と。でも、ある日突然、開発が始まるんですね。どうして調整区域からこんなに簡単に外れて、いろいろなものが建つのだろうと。</p>
新川部会長	<p>そのとおりです。日本中の市街化調整区域でそういう問題が起こっていて、どんどん穴があけられているというのが現状です。公共公益施設が基本的には許可が出やすいので。</p>
宮原委員	<p>緑の保全はとても難しいことですよね。しかし、大事なことだと思います。</p>

新川部会長	<p>そこはやはり、単に市街化調整区域ということだけではなくて、例えば景観条例であるとか、追加的に二重三重に保全をする方向をつくっていく、地区計画をきちんとつくって、地域の環境もみながら適正な開発をしていく手法もあります。地域のみなさん、地権者の方々の合意が必要ですが、技術的にはそういう手法もたくさんあります。それも逆に、自分達の環境を自分達で守っていく、自分達でつくっていくという市民の動きというのを、総合計画の中の大きな目玉商品にしていくというのは当然ありうることだと思います。手法はありえますが、現実にはなかなか難しい点もあります。土地や建物は個人それぞれの資産ですので。余計なところに入ったかもしれませんが、計画を考える上では重要な論点です。</p> <p>お話いただいている論点もたくさんあるかと思いますが、どうぞ自由ないろいろな話だけでも構いません。</p>
三輪（信）委員	<p>すでに加藤委員がおっしゃった部分ですが、選択と集中というのがやはり気になるんですね。最初、選択と集中と聞いた時、何をイメージしたかということ、お金が少ないから、お金がかかるやつはやめていこうみたいな感覚があったんですね。私の関わっている事業がどんどん切られていって、一律にいろんな活動がカットされていきました。ですので、お金に困っているのはそうなるんだろうなというイメージがあったのですが、ただ、やはり私が申しましたように、何か将来像こうありたいということにこそ選択と集中が必要で、絞り込みの時にやはりどんなまちになりたいかという理想像に近づいていけるように書いておいていただかないと、お金の面で切られているようで仕方がないです。</p>
徳久委員	<p>あげている趣旨は、三輪先生がおっしゃって下さった趣旨です。</p>
小原委員	<p>住みよいまちにしていこうと、市長の任期4年にあわせるという仕方なのか。市長が変わったら、住みよいまちでなくてもいいのか。その辺は市長の任期にあわせるというのはいかがなものかなと思います。</p>
宮原委員	<p>理念は変わらず目標で、事業計画は刻まざるを得ないのかなと。</p>
小原委員	<p>それでいいんですけど、そういうふうに出してしまうと、一般に受ける方は、本当に将来を考えているのか、それとも市長の任期を考えているのかとなるのではないかと。</p>
宮原委員	<p>基本的なものは継続していただくか、命にかかわる水とかは継続事業なんだろうけど、市長さんが変わったとたんに、政策がころっと変わったら、すべて変わってしまう。</p>
小原委員	<p>1、2年間隔でみていくのもいいし、10年計画でもいいですね。</p>
宮原委員	<p>住みたい、住み続けたいというのは市長が変わっても変えづらいでしょう。</p>
小原委員	<p>それはそうですが、期限を切るということになると、市長にあわしてというのを誰かおっしゃいましたよね。それは言わないほうがいいと思うんですね。</p>
新川部会長	<p>とくに4年後で区切るのは、基本計画よりもっと具体的な実施に関わるころの計画ですので、ここでの議論の対象から外れていると考えていただいていると思います。ここで基本構想といっているのは大体30年ぐらいの間、年末ぐらいから議論する基本計画は12年間というふうに考えたいということで、その意味では、もっと毎年の行政運営に関わるようなそういう計画も必要だと言うことで実行計画は4年区切りで考えていこうという趣旨です。</p> <p>ご指摘のように市長が変われば上位にあるはずの基本計画の考え方もゆがめられたりということで、そこは我々もしっかりといい計画を提案し、どんな市長さんが選挙で選</p>

	<p>ばれたとしても、ここだけは守らなければいけないというような計画にできればと思います。逆に世の中どんどん変化をしてる、市長さんは4年ごとの選挙では、その変化をそれぞれ感じて、みなさん選ばれると思いますので、そういう方がでてきた時にはやはり柔軟に対応できるようにしておく何かと、そこは両方必要かなと思います。</p>
宮原委員	<p>枚方市って、健康都市とか非核都市とか平和都市とか、5つか6つうたってますよね。そういうものが全部優しい言葉で表現されてると、とってもいいわけですよ。</p>
新川部会長	<p>なんとか都市宣言などいろいろあります。それはこの計画と対応している気がします。</p>
宮原委員	<p>非核都市だから安全だ、安心して暮せるまちとか、くっつけてそんなふうな理解の仕方もあるんですかね。あれは、別に宣言しているだけで関係ないのでしょうか。</p>
事務局	<p>基本目標については、基本的な市の施策、めざすまちの姿を達成するための目標として考えていますので、直接に、密接に位置づけながらつくっているわけではありません。大きな枠組みで関連しているというように考えていただけたらと思います。</p>
加藤副部会長	<p>「めざすまちの姿」からすると、この5つの基本目標は、ある意味具体的にブレークダウンした形で書いているかなと。最初みたときは網羅的でいろんな分野を書いているだけだなあと思ったんですが、改めてこの2つを比較してみますと、5つの基本目標というのは具体的な状態を指していますよね。この言葉でいいのか、もっと住みたい、住み続けたいというコンセプトをはっきりみんなに分かるようなブレークダウンした目標がある方がよいということであればそうしたらいいと思うのですが、基本的にはこれでオーケーかなと。</p> <p>ただ、どれだけそれをやるかということですね。さきほど、本田委員もおっしゃってましたけど、市民が誰も知らないと、やはりことあるごとに、こういうことで進めているということをやらないと、市長が変わったら、みんな知らないんですから、どんどん変わっていきますよね。ということで、もしこれを出すのであれば、農業で生産されるような特産品、子どもの何かのプレゼント、何かのときに必ず出てくるような、そういうリンクを常にやっていかないと、本当に絵に描いたもちで終わってしまいますよね。いろいろ案が出たら、できるだけ具体的な形でできるようなところまでぜひ踏み込んでいかないといけないんじゃないかと思いました。</p>
宮原委員	<p>府内でも地産地消は、枚方市でうたってるんですよ。</p>
加藤副部会長	<p>具体的に、地産地消を給食でやっているとか、農業に従事されている人が学校に来て、ものを育てたりする時の大切さとかをどれだけやっているかとか、色々あると思うんですよ。どのぐらいのところまで具体的な施策としてやられているかということは確認しないとけない。</p>
宮原委員	<p>学校農園というのが小学校にありますけど、800人ぐらいの子どもが小さな土地で学年ごとにさつまいもなど、自分達の植えたさつまいもを収穫して焼き芋をしたとか、餅米で餅つきをしたとか、そういうのはこの小学校でもやっています。しかし、「農」としての姿として大きく見えているとは思えない。</p>
岡田委員	<p>地域の農家が学校と協力して、何年生の方には畑を体験させてあげるといったことは地元でやられています。JAも、田植えや、稲刈りは9月にするんですけども、そういったことを、枚方だけではなく、北河内になります、親子ともども180名ほどこられ、毎年やっております。</p> <p>もう10年くらい前から、実は特産品を考えているが、なかなかハードルが高くて、できない。お米につきましては、エコ。通常の肥料とか農薬、化学肥料を半分にした環境</p>

	<p>にやさしい産物をつくっていきましょうということで製品化しまして、「れんげっこ」という名称で、レンゲの花、レンゲ草、これは肥料成分もございますので、そういった特産、また商標登録もとっています。それからまた、その他の例えば「枚方メロン」であったり、そういうふうなものもつくってきたいなということでやっていますが、これはハードルが高いです。お米に関しましては、今年、環境を大事にしたということで知事賞をもらったりということがあります。</p> <p>さきほどの市街化調整区域の話の中で、農業を、あるいは農地を保全するというところで、実は農協は農業を自身ではできないんです。農家と商売敵になるということで制限されていたところなんです。ところが、高齢化あるいは後継者不足がかなり増えていくというのが、地方のほうでは目に余る状況になっています。大阪府下ではどこでもやっていないんですが、農協が農業を直接経営できるようにしましょうということで検討しています。監督官庁である大阪府にも事務手続等協力をお願いして、準備をしています。</p>
加藤副部長	貸し農園は今どのぐらいあるんですか。
岡田委員	市民農園です。市民農園は枚方市からの委託を受けて、もちろん地主さんは農家ですが、かなりの面積があります。
加藤副部長	おそらくサラリーマンが高齢化したりなどで、非常に需要があるので、そこに、補助金といはいませんが、何か支援策を頑張っていたらいいかな。
岡田委員	あと体験農園という、いわゆる、農家の方が先生となって、資材も用意してもらえて、年間いくらかで、市民農園で講習会もやってくれるというような、こういうのを目指しています。一部はもうされています。そんな状況です。
加藤副部長	そういうデータが事業評価のときにベースになっているだろうと思います。あとは例えば、ふるさと納税みたいな話で、枚方市ご出身の方が枚方に税金を納めた時におみやげとして、ふるさと納税のプレゼントにする場合もありうるでしょう。
岡田委員	何か特産品は考えたい。加工品でも何でもいいのですけれども。
新川部長	枚方ブランド。基本計画のどこかに言っておかないといけないですね。
加藤副部長	前段でブランドの発信と言っているが、具体的に何を発信するのかということですね。健康都市なのか、医療が受けられるという発信の仕方もあると思うが、農産物だって当然、生活に非常に密着して、そこを頑張っているという情報発信じゃないといけないですね。
新川部長	そうですね。住まうというか、住機能みたいなところもブランド力に十分なりうるかも知れません。
徳久委員	5つの基本目標のところに関わるかもしれないので、少しだけ終る前に言っておいた方がいいかなと思ったのですが、三輪委員がおっしゃられたように、枚方市が住み続けたいというまちを担っていく人々をつくらなければいけないというのがすごく大きな課題だと思っています。実は、人材育成というのがとても重要になってくると思うのですが、その点が5つの基本目標の中には入ってなくて、どちらかというと市がこういうまちを実現しますという形で、与えられたまちというイメージが強い。ですが、やはりみんなで作って、枚方市民も担い手で、担い手をどんどん再生産していくんだということが大事だと思うので、その点を検討していただきたいと思います。

新川部会長	<p>特に基本構想の段階で、単に行政計画を作るというよりは、もう少し市民もちゃんとやる、役割をもって関わって、一緒につくっていきます、あるいは事業者の方々や地域のいろいろな団体の方も一緒になって取り組んでいく、そんなイメージが入ってくると、単に市役所が、市長さんが何かするというのを超えられるという気がします。</p> <p>ここまでいくと、市民の力がつくるまちという、そんなイメージになります。そういうまちを誰が支えていくのか、どんな産業が支えていくのかといった話ができると、もう少し広がりが出てくるのではないのでしょうか。</p>
加藤副部会長	<p>まちという状態を指すのではなくて、できたら「まちづくり」ぐらいにしてもらった方が、より能動的な部分が入ってくると思います。</p>
三輪（信）委員	<p>私自身よく分からないので教えていただきたいのですが、「4. まちづくりの進め方」のところは、何を言ったらいいのかなあと。例えば15ページというのは行政が言いたいことだなと思います。14ページの「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」はよくわかるのですけれども、他の3つは行政の心構えみたいな、少し別種のような感じがします。</p> <p>今までいろいろなご意見を聞いてると、例えば、ゾーニングをしっかりとしましょうねとか、人材育成を頑張りましょうねとか、そういうのがもう少しこっちに入ってくるかなあと。整理の付け方が、今はよく分からない。</p>
宮原委員	<p>行政が45小学校区のコミュニティ協議会を結成して、自分達の住んでるまちのことは自分たちで考えてやりましょうというのを枚方市は打ち出していて、補助金もいただいていますよね。それは住民が主体になって、自分たちの住んでるまちを考えて、まちづくりをしていってくださいよという意味の補助金ですかね。</p>
新川部会長	<p>主体はやっぱり地域のみなさん。行政の役割はそれに協力をする、あるいは行政としての一定の役割、補助金を出すなら補助金を出すという役割、決して行政がお考えになっているまちづくりをするというわけではないはずなんですけれども、現実はそのなっているかよくわかりませんが。</p> <p>少し根本的なところの議論をしてきました。三輪委員からまちづくりの進め方、徳久委員も言われているところですが、一体どういう進め方をしていくのか、いろんな担い手の人達が一緒にまちをつくっていくというのが大きな目標であると同時に、実際にこれからの枚方をつくっていく具体的な策、その中で行政もその中の一翼ですから、しっかりと役割を果たしてくださいというのはあります。その行政の中身として、効率的にやりましょうというのは出てくるかもしれない、そのくらいのイメージかもしれません。</p> <p>情報発信などは逆に市民、NPO、事業者、地域の団体の方々にもっともっと、同じ市民に対して情報発信していく必要があるかもしれません。ここはいろいろと議論の余地もあるかもしれません。</p> <p>ということで、予定1時間程度ということでしたが、もう1時間15分になってしまいました。たぶん、このまま、ああでもないこうでもないと言っていますとエンドレス、そんな雰囲気も個人的には感じていますが、そういうわけにもいきませんし、次回もありますので、今日はいったんこの辺で閉じたいと思います。閉じる前に、最後に言っておかなければいけないこと、言い残した、気になってたんだというようなことがあれば一言お願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、ホワイトボードに書いてもらったことで、どんなご意見があったのか、もしまとまったグループがあれば、いくつかご紹介いただければと思うのですが、いかがでしょうか。</p>

<p>コンサルタン ト（都市空間 研究所）</p>	<p>まず出ましたのは、農業の話から発展しまして、市街化調整区域の開発のあり方、あるいは市街化調整区域の緑をどう守っていくのかということ、地勢をどうやったらいいのかという話です。</p> <p>続いて、まちづくりの方向性はいいと思うが、それをどう実現するのか具体化のところ、基本計画のところになると思うのですが、詰めていったらいいのではないかという話です。</p> <p>世代間の助け合い、交流ということで、中学生などが、災害等の時に高齢者をどれだけ助けられるのか。まちづくりの姿については、実際これができた後、市民の方がどれだけこれを認識できるのか、また、知ってるのか。行政の方がどれだけ認識して日々の運用に取り組むのかというお話がありました。</p> <p>3つの基本的な考え方について、そのなかで選択と集中というものについて、市としてどう考えているか。</p> <p>住宅都市、住みやすさということで、住宅都市をめざすのであれば、住みやすい、住み続けるというところをもう少しみんなで考えて施策をつくっていく必要があるのではないか。</p> <p>特にこの計画をつくって、どういう幸福感があるのかという点。農業の話が多く出まして、非常に緑が大事、農地を訪れての体験学習などが重要だという話がでて、体験学習とかそういうものはやられてはいるけども減少してきている。その辺を死守していくにはどうしたらいいのか基本計画など具体レベルで検討する必要がある。</p> <p>都市計画ではゾーニングの話。突然、開発が起こったりなど、いろいろな問題が出てくるのだけれども、景観法や地区計画といったものを多重的に考えていく必要があるのではないか。</p> <p>目指すまちの姿を5項目で出しているのは、基本的にはオーケーだという話。市民に総合計画とか目標・理念をどういうふうに知らせていくのか。具体的な形でどう使われるように発信していくのか。</p> <p>総合計画をつくっていく上で、みんなでまちをつくるためには、市民が育っていく、熟成していく人づくりみたいな形を構想のなかに盛り込むことも必要だという話もありました。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>いろいろな重要な論点をいただいたと思います。</p> <p>この部会、もう1回10月17日にございます。ぜひ、それまでの間に、今日この後もいろいろ思いついた時には、事務局に言っていただければと思います。そういうものも含めて、今日のご議論をふまえ、次回もう一度議論をしたいと思いますが、今日のところは、こういうまとめでよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>第1部会につきましては、いろいろとご意見をいただきましたけれども、次回また改めて今日の議論も振り返りながら議論を煮詰めていくということにしたいと思います。</p> <p>1時間30分近くになってしまいました。</p> <p>事務局のほうにお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ただ今、会長の方からもおっしゃっていただきましたが、本日の資料等について、ご不明な点などございましたら、9月4日までに、電話、メールなどで事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>本日の議論につきましては、論点整理をし、おまとめさせていただきまして、委員の皆様全員で共有化して、次回もご議論いただき、最終的にその議論をとりまとめて11月の審議会で試案として、まとめさせていただく、そういった形で進めさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>本日の資料につきましては、こちらのほう、机の上にそのままにしておいていただけましたら、バインダーに綴じさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>本日の会議録につきましては、事務局で案を作成しまして、審議会と同様にホームページで公表していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>

新川部会長	<p>次回の部会につきましては、10月17日になります。忙しく大変恐縮ではございますが、ご出席賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>本当に長い時間、議論に参加していただきありがとうございました。 次回につきましても、よろしく願いいたします。 本日の第1部会は以上とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>
-------	--